



山木屋の空の下に子どもたちの元気な声が広がる!

山木屋小中一貫教育校開校



7年の時を経て

川俣町山木屋で

4

月1日、7年の時を経て山木屋小中一貫教育校として学校が再開されました。

平成23年4月18日に東日本大震災及び東京電力福島第1原子力発電所事故による避難指示を受け、小学校・中学校共に川俣町立川俣南小学校へ学校機能が移設されました。さまざまなことが動き出す春にこのような事態が起き、不安と困惑が重く町全体を包み込んでいました。町民やさまざまな人の協力により、川俣町は着実に一歩一歩進んでいきました。

平成29年4月13日に文部科学省の参与が来庁し、山木屋小中一貫教育校開校へ向けた会議が始まりました。平成29年7月1日に6年ぶりに児童10名、生徒20名による山木屋小中フィールドワークが行われ、山木屋地区に児童生徒の笑い声が広がりました。

そしてついに、平成30年4月1日、山木屋地区に戻り山木屋小中一貫教育校として学校が再開されました。川俣町は新たな一歩を踏み出しました。

21世紀を力強く生きる

山木屋の教育

山

木屋小中一貫教育校では「21世紀を力強く生き抜く子どもを育てる」ことを基本構想に掲げ、教育理念を「児童生徒の豊かな育ちを重視した9年間の一貫教育の推進により、地域と共に児童生徒一人一人の夢を叶える学校」としています。

基本構想の具体化を図る重点施策として「確かな学力を身に付けること」、「社会の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を育てること」、「心身共に健康な体と体力の向上に努め、生きる力を育むこと」の3つがあります。

その中には、電子黒板や、タブレットなどの情報通信技術を活用した教育の推進や小学校・中学校が合同で行う行事、小学5年生以上からできる部活動、アスリート等による運動能力向上の取組があります。

児童生徒が豊かな山木屋の自然の中で、のびのびと学び、地域と共に成長することができる環境が、ここ山木屋小中一貫教育校にあります。

子どもたちの笑顔が山木屋のエネルギーに。

「平成23年4月に山木屋を離れ、7年が経過した。ようやくふるさとやまきやに戻り、小中一貫教育校として開校することができた。これからの学校の取組が重要になる」と話をしてくれた齋藤仁道校長。校長は、「山木屋小中に期待を寄せている児童生徒や保護者のために、一人一人に寄り添ったオーダーメイドの教育活動を展開し、『山木屋小中で学んで良かった、学ばせて良かった』と思える学校づくりをしていきたい。学校再開は復興のシンボルであり、そこで学ぶ児童生徒の笑顔は復興のエネルギーである。」と力を込めて話をしてくれました。



校長 齋藤仁道さん

大好きな山木屋で

勉強できる喜び



△山木屋小学校6年生 星 恵人くん

学校が開校されるまでは、町内の川俣南小学校で勉強していた恵人くん。「学校が開校されて、ふるさとやまきやで勉強することができ嬉しいです」と笑顔で話をしてくれました。なかでも、「八坂神社三匹獅子舞」の伝統を学ぶ学習や、「そば打ち体験」などが楽しめたと話しました。

小学5年生からできる部活動では、大好きなバトミントンを頑張りますと答えてくれました。山木屋でしか学ぶことのできない学習とおし、様々な力を身に付けていってください。

たくさん学び

将来は幼稚園の先生に



△山木屋中学校3年生 菅野 彩香さん

現在、町内に住む彩香さんは「山木屋は広々としていて過ごしやすく、小さい時に近所の友達と坂道を一緒に競走したのが楽しかった」と、当時の山木屋での思い出を語ってくれました。

新しい校舎に入り、「電子黒板などの新しい設備があり、ふるさとやまきやで勉強するのが楽しみです」と笑顔で話をしてくれました。

本を読むことや子どもが大好きな彩香さん。幼稚園の先生になるために、1日1日を大切にして頑張ってください。

写真の説明

1. 上空から撮った山木屋小中一貫教育校とグラウンドの写真。
2. 美術室での授業の様子。
3. 電子黒板を使った、国語の授業の様子。
4. 英会話をとおし、実践的に英語を学んでいる様子。



2



1



4



3